

平成三十年の漢字はなんと「災」。六月〜七月にかけて西日本豪雨災害が、九月には北海道胆振東部地方を震源とする大地震が起こり、私たちは自然の脅威の前に無力であると痛感させられました。日本各地で災害が起こるたび現地に足を運び被災者の方々にお心を寄せてこられた天皇・皇后陛下も、この四月には退位され、新元号で新たな歴史が刻まれていきます。

このような時代の流れの中で、東日本大震災の被災地は少しずつ人々の記憶から薄れていく現状があるように思われます。私たち霞城学園高校は、平成二十六年から特定非営利活動法人ハッピーロードネットの桜プロジェクトに参加し、夏休みに山形駅で街頭募金を実施、ご協力頂いたお金を先の団体に送金して、昨年十二月十五日に福島県相馬郡新地町に五本の桜の苗を植えることができました。これまで福島に送ることが出来た桜は二十四本となりました。ご協力してくださった皆さま、誠にありがとうございます。現在このプロジェクトは福島県浜通り一六〇キロに一万本の桜を植え、今後あと一万本の植樹に挑戦していくとのこと。その規模は広大で、被害の大きさを改めて思い知らされます。

今年度の「総合的な学習の時間」を利用し、震災当時のお話を伺い、そこで学んだことを参考にして傘福の制作を行いました。「傘福」はそこに生きる人々の願いや祈りを込めて細工物を作り傘の下に下げるつるし雛の一種です。これらの活動の趣旨に賛同してくださった卒業生の保護者の方との合同展示です。六体のお地藏さまは、被災地への鎮魂と平和への願いが込められています。

霞城傘福は、東日本大震災復興への願いを込めて制作し、今年で八年目を迎えます。今年もまた、東北復興への祈りをここ霞城セントラルから発信していきます。

平成三十一年 春